

行方不明になった利用者を施設の必死の搜索で発見

—搜索方法をあらかじめ決めていた—

■行方不明から60時間後に無事保護

夕方6時に介護付き有料老人ホームで、認知症の男性利用者Mさんが施設を出て行方不明になりました。他の自立の利用者と一緒にエントランスを出てしまったのです。この施設では、認知症利用者の行方不明事故が発生した時の搜索方法が全てマニュアル化されていたため、すぐにマニュアル通りに行動しました。施設職員の必死の搜索と地域を巻き込んだ搜索によって、行方不明発生から3日目の早朝に利用者は無事保護されました。3日間に及ぶ搜索の対応状況を詳細にレポートします。

搜索マニュアルを活用すれば利用者を発見できる

■第一段階：初動対応 —近所の搜索と家族連絡・搜索願など—

- ①Mさんが見当たらないことに気付く職員2名でフロアを5分間探す→発見できず
- ②報告を受けた相談員が玄関のビデオをチェック→他の利用者と出て行くMさんを確認
- ③職員4名で周辺1キロ以内の幹線道路を20分間搜索→発見できず
- ④施設長が家族に報告して謝罪し、搜索願の了解を得る→警察に搜索願を提出
- ⑤職員10名で施設の周囲と入所前に住んでいた住居の周辺を搜索→発見できず
- ⑥施設の事務職が交通機関や公共機関に電話で搜索協力を依頼→依頼先：鉄道の駅・バス会社・タクシー会社・市の介護保険課・市社協・地域包括支援センター
- ⑦相談員が家族に搜索チラシ配布の了解を求める→本人の写真貼付を含めて了解を得る



■第二段階：2日目 —搜索チラシ作成配布—

- ⑧搜索チラシを1000枚作成し地域に配布し協力依頼→配布先：コンビニ・保育幼稚園・小中学校・出張所・宅急便営業所・宅配ピザ・宅配寿司・新聞販売店・牛乳販売店・ヤクルト販売店・交番など
- ⑨看護師が市内の救急病院に連絡して救急搬送者を確認→搬送者に該当無く家族に報告
- ⑩法人本部で施設周辺の介護事業者へ電話で搜索協力を依頼→約100事業者へチラシをFAX送信

■第三段階：3日目 —周辺の徹底搜索と駅前チラシ配布—

- ⑪職員8名で施設周辺人目につかない場所を徹底搜索→搜索場所：橋の下・大きな側溝・公園のトイレや茂み・資材置き場・工事現場・神社の境内・お寺や墓地・用水路など
- ⑫搜索チラシを2000枚追加作成して、職員2名で施設の最寄駅の前で配布

3日目の昼頃にFAXで搜索協力を依頼した訪問介護事業所から、ヘルパーが自転車で訪問先に行く途中、Mさんを見出し保護したと連絡が入る。

■3日目の徹底搜索は必要性

施設付近の人目につかない場所でケガをして動けなくなった場合、48時間経過時から死亡の可能性が高くなることから、周辺地域を10区画に分割して二人一組で徹底搜索を行います(職員は遺体と遭遇する可能性あり)。人目につかない場所で死亡した場合、長期間の遺体が発見されない可能性もあるので、付近は早期に徹底搜索をする必要がある。

万が一に備えて行方不明者の搜索マニュアルを作ろう

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部 市場開発室

担当 堀江 TEL 03-5789-6456

監修

株式会社安全な介護 代表 山田 滋

担当課・支社 代理店

株式会社福祉施設共済会

東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル

電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882